

科目名	財務分析論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済学科	□ 必修	■ 選択
			学科	□ 必修	□ 選択
英文表記	Financial analysis	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年		
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	おおかわ ゆうすけ	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	大川 裕介	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	自分の興味のある企業や志望先企業等の経営状況をより詳しく知ってみよう。				
到達目標	企業の経営分析の目的や考え方、理論および実践方法等を修得し、企業の決算書類（財務諸表）を読み、分析する力を身に付ける。				
授業概要	テキストに沿って、企業の経営分析の基本を概説するとともに、具体的な事例に基づき、実際に分析を行う。また、単に指標を計算するだけではなく、社会的な要請を踏まえて、その企業の状況を検討する。				
授業計画					
第1回	財務分析の基礎(財務分析の意義と目的、会計との関係、分析の体系など)				
第2回	財務諸表・有価証券報告書の読み方				
第3回	安全性の分析①(意義、短期安全性)				
第4回	安全性の分析②(長期安全性、資産等の運用効率)				
第5回	収益性の分析①(意義、資本利益率)				
第6回	収益性の分析②(売上高利益率)				
第7回	キャッシュ・フロー分析				
第8回	損益分岐点分析①(意義、求め方)				
第9回	損益分岐点分析②(固定費と変動費、限界利益)				
第10回	生産性の分析(付加価値、労働生産性)				
第11回	成長性の分析と総合評価①(成長性、株価関連の分析指標)				
第12回	成長性の分析と総合評価②(指数法、企業集団、非財務情報)				
第13回	企業分析演習①(各自興味のある企業の財務諸表を分析)				
第14回	企業分析演習②(分析結果の報告、議論)				
第15回	全体まとめ、補足説明 ※受講生の理解度等により、講義の順番を変えることがある。				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簿記入門Ⅰ・Ⅱの内容を理解しておくこと。</li> <li>・ 授業終了後に1時間半程度の復習を行うこと。</li> </ul>				
履修条件 受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な財務諸表の知識があることが望ましいが、前提となる内容も併せて解説をするので、深く正確な知識は事前には必要としないが、「資産」「負債」「経常利益などの基本的な意味は簿記入門Ⅰ・Ⅱで理解しておくこと。なお、授業内容に対する関心度と理解度を把握するために、質疑応答を行うとともに、練習問題の演習を実施する。</li> <li>・ どうしてもやむを得ない場合を除き、欠席、遅刻はしないこと。</li> </ul>				
テキスト	『入門経営分析 第2版』藤永弘編著、同文館出版、平成27年 そのほか練習問題としてプリントを配布する。電卓(12ケタ以上)を持参すること。				
参考文献・資料	講義中に紹介する。				
成績評価の方法	授業態度(30%)、練習問題・演習(10%)、定期試験(60%)				

	<p>上記評価項目を基にして総合的に判断する。</p> <p>※授業態度は、授業内容に対する関心度と理解度を質疑応答において評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の金額を納めていない場合は試験を受けることができない。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。</li> </ul>
オフィスアワー	月曜日および火曜日の空き時間
成績評価基準	秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)、
実務経験及び実務を活かした授業内容	公認会計士としての実務経験を活かし、具体的な事例に基づく財務諸表の分析を行うなど、実践的な授業を行う。
学生へのメッセージ	財務諸表を活用して、企業の経営状態を読む力を身につけよう。